所属：鶴岡工業高等専門学校 創造工学科 基盤教育グループ

研究タイトル：英語発音と分かりやすさ(comprehensibility)：その成功要因とは何か?



氏名：	阿部　秀樹 ／ ABE Hideki	E-mail：	habe@tsuruoka-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士（英語学）
所属学会・協会：	全国英語教育学会，全国高専英語教育学会		

キーワード：	英語発音，分かりやすさ(comprehensibility)，第二言語の音韻習得
技術相談 提供可能技術：	・構造方程式モデルによる自己調整学習ストラテジーの分析 ・上記に基づく学習指導効果 ・学習者発音の音声学・音韻論に基づく分析

研究内容：構造方程式モデルによる発音学習モデルの構築

第二言語習得研究における過去数年の指導効果研究では、特定の学習項目の指導効果だけでなく、学習過程にける個人差にも関心が向けられている。学習者の発音能力の到達度と学習動機及び学習方略を構造方程式モデルによって分析し、学習メカニズムの解明に取り組んでいる。

従来、学習動機と学習ストラテジーが到達度を予測する有力な個人差要因と考えられ、それぞれの立場から重回帰分析等を駆使したモデル構築が試みられていたが、そもそも「やる気があれば実力は自然とつくのか？」「やる気もないのに何かをしようとするのか？」といった素朴な疑問から文献調査をしてみると、1）学習動機、学習ストラテジーは別々に、あるいは複合的に発音の分かりやすさ（到達度）を予測するのか、2）どのようなモデル構築をすると、発音学習を促進できる手がかりが見出されるか、この2つの問題について調査にあたった。

120名ほどの学習者に学習アンケートとスピーキングテストを受けてもらい、結果をSPSS, AMOSで因子分析、相関分析、そしてSEM分析をすると、1）動機はストラテジーに影響し、ストラテジーが到達度に影響を及ぼしている、2）動機はストラテジーを介して到達度に影響する、ことが判明し、発音学習における「線状モデル」として提案している。

【本研究に関連する研究業績】

Abe, H. (2015). *Effects of form-focused instruction on the acquisition of weak forms by Japanese EFL learners*. 名古屋学院大学大学院 博士論文.

Abe, H. (2020). Effects of individual differences on the development of L2 comprehensibility: A cross- sectional study at a technical college.『全国高専英語教育学会論集 第39号』, pp.157-164.

Abe, H. (2023). Second language comprehensibility, motivation, and pronunciation learning strategies: How learners approach the target language pronunciation.『山形県 英語教育』第 68 号, 2-3.

Abe, H. (2024). The role of PLS and motivation in L2 pronunciation attainment: A SEM approach. SSU5, Warsaw University, Poland.

Abe, H. (2025). Pronunciation learning strategies and motivation: Their impact on second language speech of Japanese EFL learners, *Research in Language, 23,* 289-306.

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	